



コロナ対策もバッチリ！

1月10日(日)小浜市文化会館大ホールにおいて、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に講じて、小浜中校区と小浜二中校区の2部構成で開催されました。

今年度は感染予防対策のため新成人のみの入場で行われ、保護者の方や参加を見送った新成人を対象に成人式の様子はオンライン配信(ライブ配信)されました。



小浜地区 39名 ★ 雲浜地区 34名 ★ 西津地区 34名 ★ 内外海地区 14名
 国富地区 21名 ★ 宮川地区 9名 ★ 松永地区 12名 ★ 遠敷地区 44名
 今富地区 51名 ★ 口名田地区 21名 ★ 中名田地区 6名 ★ 加斗地区 12名

新成人対象者数(令和2年12月20日現在) 合計297名

平成12年4月2日~平成13年4月1日までに生まれた方

昭和28年(1953年)台風13号体験記

(その2)

午後5時頃、班の藤沢のおばさんが暴風の中、我が家に駆け込んで来られた。「土手が決壊したからすぐに逃げるように。指定されている避難場所には行けないから、ここから200m程離れたところにある鉄筋コンクリート建屋に逃げるように」と指示をいただいた。

二人とも着のみ着のまま、母は「父の位牌」と貴重品を持ち、私は手ぶらだったように思われます。外に出ると道路にはすでに水が流れていた。

避難する道中、水量が膝まで達した。また向かっている先の反対側からも水が流れて来て板挟みになり必死の思いで建屋に到着した。建屋の中は鋼山の作業現場で高さのある機械が置かれていた。中にいた男の人が避難してきた私達を次々と機械の上へ乗せてくださった。伝馬舟に乗って避難して来る人もいて、その方も救助されていた。

間もなく日没になり、辺りは闇が支配していた。足元からはゴウゴウと濁流の音が響き水は私達の乗っている機械のそばまで上がって来ている感じがした。周囲の人達が顔見知りの方ばかりで、さほど不安は感じなかった。暗闇の中、「助けてえ」と叫ぶ女の人の声が聞こえたが激しい雨風とゴウゴウと流れる水の音でかき消されていった。今までもその状況が頭から離れない。

一夜明け雨もやみ水が引いたため、皆家路についた。

家に入って驚いた。畳の上には泥が積もりタンスの下から三段目まで水が浸った跡。壁に雨水が染み込んだ異常な臭、とても住める状態ではなかった。

その日のうちに私は親戚の家に預けられることになった。ある家の前には大きな穴があいていた。おそらく濁流がうずを巻いて出来たであろうその穴を見ながら親戚宅へ向かった。途中、むしろがかけられたご遺体と遭遇したが、迎えに来てくれた親戚から見ないようにと言われ、目をそらして通り抜けた。

水を大量に吸いこんだ畳の持ち出し、床下の泥出しなどの重労働な後始末を一人残った母はどのように片付けたであろうか。

当時の恐怖は今なお脳裏から離れていません。

この体験で、自然災害発生時には近隣でお互いに声を掛け合い、危機が迫ったら躊躇することなく避難するという教訓を得ました。

行政機関が発令する緊急情報を確認することも大切ですが、自分達を取り巻く周辺の状況を把握し、危険を感じたらすぐに行動に移すことを心掛けていただければと切にお願いし、私の体験記とさせていただきます。



習字の作品完成会



雲浜小学校児童3年生から6年生の11名が12月26日(日)「習字の作品完成会」に参加し、都築元子さん(水取2)、平田卿子さん(千種1)に教えて頂き、冬休みの習字の課題を仕上げました。出来上がった作品の1枚は、雲浜公民館体験室の壁に展示しています。

小浜城跡発掘調査



瓦と高台が出てきました！